

## 会 議 録

### 1 会議名

令和3年度 第6回高田区地域協議会分科会（第1分科会）

### 2 議題

#### （1）協議（公開・非公開の別）

高田区の活性化について（公開）

### 3 開催日時

令和4年2月7日（月）午後7時40分から午後8時40分まで

### 4 開催場所

福祉交流プラザ 第1会議室

### 5 傍聴人の数

0人

### 6 非公開の理由

—

### 7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委 員：浦壁澄子、小川善司、高野恒男（副会長）、富田晃、本城文夫（会長）

松倉康雄、村田秀夫（欠席：小嶋清介、宮崎陽）

・事務局：堀川南部まちづくりセンター長 小池係長

### 8 発言の内容（主な発言の要旨）

—次第2 協議 高田区の活性化について—

#### 【富田座長】

第6回第1分科会を開会する。

高田区の活性化を目指し、「若者の地域参画」を課題として、昨年の9月より協議している。今年の7月に完了させるために後戻りすることなく、前向きな意見を出して欲しい。

この分科会が単なる提案だけでなく、主体的に実行できるものは実行しようということとは共通認識になっていると思う。1月11日のKinaiyaプロジェクトの打田

さんの話も踏まえ、今後の取組内容を次のとおり提案する。

#### 【富田座長による提案内容】

##### 1 速やかに実行できる取組として以下の3点を提案

- (1) リノベーションされた町家を見てもらう町家見学会の実施。
- (2) 町家見学会はJネット（ふるさと上越ネットワーク）の会員や他区の地域協議会委員にも周知してはどうか。なお、Jネット会員への周知は富田座長が個人としてJネット会員誌へ高田区について投稿し、その中に盛り込む。また、その投稿に市ホームページの雁木町家の関連頁にリンクするQRコードを掲載する。
- (3) 町家見学会には高田区地域協議会委員は研修会の形で参加する。

##### 2 町家見学会の実施により期待する効果

- (1) 高田区地域協議会委員が、リノベートされた町家の実態を見ることにより、自主的審議事項に結びつけるきっかけをつくる。

<自主的審議事項としての要素（課題）（案）>

- ・リノベートされた町家のPR方法
- ・若者が町家をリノベートする資金をどうするか
- ・空き家が活用できる状態のうちに、活用したい人へ提供されるにはどうするか。
- ・その他、問題点の抽出

- (2) Jネット会員、他区の地域協議会委員への周知による効果

楽観的希望として、空き家を購入し、リノベートを希望する人が出てくることを期待する。リノベートされた町家に本人が住むことや事業を起こす若者に賃貸することも可能ではないかと思う。

#### 【高野副会長】

Kinaiya プロジェクトの打田さん以外の人から話を聞かないのか。

#### 【富田座長】

まずは、この題材でまとめようと思う。他分野では例えばスポーツ関係と介護関係

を考えているが、広げすぎるとまとめられない。

【高野副会長】

女性に聞いたりしてはどうか。

【富田座長】

打田さんが関係した冊子で委員に配布済の「雁木町家を巡って楽しめるリノベーションスポットをあつめたらイイ感じの本になった」は女性陣が作成しているし、打田さんの活動には女性も関わっているので、そういったところから聞いてもいい。

【高野副会長】

町家ばかりが活性化ではない。若い人がいろいろ店を開いており、そういう話も聞きたい。いろいろな分野がある。その中でどれかをやっていけばいいと思う。

【富田座長】

町家に住むだけではなく、カフェとか民泊とかいろいろ使っている。

【高野副会長】

活性化では、ある町内でマルシェとして店を出してやっている。やる人のパワーもすごい。若い人がやれば若い人も来る。大きな力だ。

【富田座長】

小川副座長とも話し合ったが、町家見学会ではいろいろな分野のところに行って意見交換すれば若い女性の意見も聞けるのではないか。高野副会長や小川副座長もご存じだと思うが、2006年から町家三昧という町家見学会が行われている。今回は他区の地域協議会やJネット、あと私のコネクションのある企業に来てもらうとか考えられる。町家三昧は十何年もやっているが、ほとんど同じようなメンバーなのではないか。工夫するといいと思う。

【高野副会長】

こういう町家見学というと町家に特化しているので、違う方法というか、何かそういうものをやればいいと思う。

【富田座長】

いろいろな攻め方があると思う。今回は町家に対象を絞る。

【高野副会長】

一回でできるわけではない。頑張っている人から問題点とか力になれることはな

いか等の話を聞く。

**【富田座長】**

7月の期限がある。Jネットの件はいいと思うが、他区の地域協議会への周知の件は全体会に諮る必要がある。Jネットの会員は花見の時期に高田に来るだろう。

**【高野副会長】**

花見の時期に来ている。

**【富田座長】**

町家見学会の日程案は4月2日（土）と4月9日（土）で、どちらかに参加いただく（両日とも内容は同じ）。リノベートされた町家だけでなく、ボロボロになった町家があればそれも見てもらい、実態を知る。

**【浦壁委員】**

活性化といっても町家の問題だけではないし、今までいろいろな意見が出た。まとめに向けてテーマを一つに決めないと進まない。何か抽象的だ。

**【富田座長】**

町家見学会を研修会としてやった後に自主的審議を考えている。自主的審議として、こういうことをしないと町家が利用できない等、提案したいと思っている。小川副座長と協議して、ある程度おぼろげながら見えてきているが、皆さんと協議していきたい。インターネットでまちの活性化で調べるといろいろ出てくる。市では、中心市街地活性化プログラムがあり、令和2年から令和4年に第3期プログラムで動いている。こういうのを市から聞くのもいい。市は20年くらいやっている。

**【高野副会長】**

市は中心市街地について大きな構えでやって、2核1モールとかやったが効果はなく、大和があったところもガランとして、高齢者の休憩場所になっている。それより我々は小さな店舗というか、マルシェに出ている店の人達などに希望を聞いて支えるようなことがいいのではないか。若い人、若い人といっても皆力があるわけではない。

**【富田座長】**

最近ではビビットというところが本町4丁目にでき、新聞に載った。1時間500円で場所（コ・ワーキングスペース）を借りれる。

【松倉委員】

呉服屋をリフォームしている。タキサンがやっている。

【高野副会長】

こういう人の話も聞いてみたい。いろいろな人がいる。全部聞けるわけではないが。こういう新しくやっているところのリストを作るのがいいと思う。

【富田座長】

先ほど言った冊子の「雁木町家を巡って楽しめるリノベーションスポットをあつめたらイイ感じの本になった」に載っているところに聞いてもいい。

【本城会長】

市の都市整備課などでも情報を持っていると思う。職員も街中に足を運んできています。そういうところから話を聞くことも大事ではないか。我々よりも広く情報を持っている。

【富田座長】

今の件、松倉委員はどうか。

【松倉委員】

富田座長と小川副座長で見えている部分があるなら、具体的なところをまとめたものを我々に提示してもらった方がいいのではないかと。そしてこれでいこうと協議すればいいのではないかと。

【富田座長】

本城会長が言われた都市整備課の人とも個別に話をしている。そういう中で小川副座長ともいろいろ話をしている。今日決めたいのは、先ほどの町家見学会を提案してよいかということ。高田区地域協議会委員、他区地域協議会委員の約360人、Jネット会員を対象とする。

【高野副会長】

高田区の活性化について協議しているのに、他区地域協議会委員を対象にするのはどういった狙いがあるのか。

【富田座長】

コンパクトシティだ。各区地域協議会委員が実際に見て個人的に自分の子ども達にいいなとか、事業を起こせるなとか、約360人いればそういう人もいるかも

しれない。いろいろな人がいる。お互いに他区へ行って、いろいろ聞くというのは活性化になる。

**【本城会長】**

そういうのも大事だが、高田区に照準を絞っていかないといけない。他区ではそれぞれ中山間地について議論したり、農村地は農村地で議論している。直江津も活性化についてやっている。他区まで広げていくのは、興味のある人は来るかもしれないが、あまり効果はないと思う。

**【富田座長】**

目的は高田区地域協議会委員の研修だ。

**【本城会長】**

高田区地域協議会委員の研修は分かる。しかし、他区の地域協議会委員やJネットまで広げてしまうと。

**【富田座長】**

雁木のまち再生の人といろいろ話した。町家三昧をやってきたが、町家を買ったというのはほとんどなかったとのこと。私みたいによそから来ると違う視点でいろいろと考える。多様性である。何人来るか分からないが、声をかけてみるというのもいいことだと思う。

**【高野副会長】**

若者ということで絞った。13区にどうのこうのというより、高田区に絞って若者の活動にどんな支障があるか、どうしたらいいか、そういったことを聞くのがいいと思う。

**【富田座長】**

Kinaiya プロジェクトの打田さんの話を聞いて、リノベートされた町家のPR方法、若者が町家をリノベートする資金をどうするか、空き家が活用できる状態のうちに活用したい人へ提供されるにはどうするか、この3つが課題である。若者は資金がない。資金力がある人を探さないといけないと思う。他区の地域協議会委員やJネット会員に周知して町家を新たに買うとかする。そうすると若者が安く入れる。周知してもゼロかもしれないが。

**【高野副会長】**

なら、我々が探さないといけないのではないか。

【富田座長】

端的に言うとまずいと思う。

【高野副会長】

対象を広げるのではなく、若者の話をいろいろ聞いて、できることからやるということだと思う。

【富田座長】

皆さんの意見を聞いて、各区の地域協議会委員に声かけをすることはしない。

【高野副会長】

まずは町家見学会をやる。その中で若者から話を聞く。

【富田座長】

そのとおり。上越市の風土がなかなか分からない。

【高野副会長】

城下町というところから風土がきている。小川副座長が詳しいから聞かれたらと思う。

【富田座長】

皆さんからの意見が大事だ。

【本城会長】

高田区における空き家のリストをつくる。そのために市の担当部署から情報提供してもらうのが一番近道ではないか。

【富田座長】

企画政策課の人がいる。

【本城会長】

ほかに都市整備課、商店街の活性化対策をしている部署もある。そういったところと意見交換をする。行政は金をかけていろいろ調べている。雁木の景観づくりについて私の町内も指定されたが、そういう具体的な動きがある。そういうところとも連携して一緒にやれるようなもの。小川副座長や高野副会長のパイプを生かしてリストを作れば面白いのではないか。町家見学会をやる前に具体的な動きをしているところの説明を聞いて知識を得たいと思う。

【富田座長】

雁木のまち再生の人がいろいろなところを紹介するとのこと。企画政策課とかいろいろな課に行って聞いてみる。行政から聞くこともやぶさかではない。

【高野副会長】

都市整備課や企画政策課とかは大きな部分でやっている。我々はもうちょっと庶民というか目線を下げて活動している人に話を聞くことが大事だと思う。我々が大きな部分にいくと、何なんだということになってしまう。

【本城会長】

富田座長と小川副座長で少し整理してほしい。

【富田座長】

承知した。どんなところを見たらいいかなど協議する。

【浦壁委員】

富田座長からいろいろな団体がこういうことをやって、あれもこれもと情報を話され、知っておくことはよいが、若者に気軽に声をかけて、そして動いてもらえる、そういう取組の方向ではないか。もっと地道に高田区の町内や地域で、行政になかなか関わってもらえないようなところに我々が考えを出して、活性化にもっていく方向がいいのではないか。そろそろまとめてもらいたい。

【富田座長】

小川副座長と協議して次の分科会の1週間くらい前に、こういうことを考えているというのを送付するので、そこでまた意見をいただきたい。最終的には自主的審議としたい。

【高野副会長】

自主的審議にするといっても、では何をやるのかとなる。具体的なものが必要だ。

【富田座長】

リノベートされた町家のPR方法、若者が町家をリノベートする資金をどうするか、空き家が活用できる状態のうちに活用したい人へ提供されるにはどうするか、この3つの課題だ。

【高野副会長】

Kinaiyaプロジェクトの打田さんの関連。

【富田座長】

この課題を何とか支援したいということで、実際に現場を見たら何か出てくるのではないかと考えている。

【高野副会長】

PRはどういったことを考えているのか。

【富田座長】

J ネットへの周知だ。他区の地域協議会も考えていたが。町家三昧は毎年同じ人が来ていたのではないかと。私は知らなかった。村田委員は知っているか。

【村田委員】

知らない。

【富田座長】

今までは興味のある人だけだったと思う。世の中は2・6・2だ。2割の人は何もしなくても行く。6割の人にいかにもその気にさせるか。J ネットと高田区地域協議会委員へ周知する。他区の地域協議会委員は先ほどやらないことになった。Kinaiya プロジェクトの打田さんは以前に若者を集めて町家見学会をやっている。打田さんにはまた意見を聞いてみようと思う。

【浦壁委員】

空いているところにただ人が来ればいいというのは、よく考えなくてはいけないと思う。ビジネスとして成立するかどうかというのが大きな基になっていて、成立しなければ撤退すると思う。若者といっても皆生活がかかっている。我々は地域の活性化に向けて、ビジネスとはちょっと離れて、地域と一緒にあって皆でやっぺいこうというのが、活性化の基になっていないといけないと思う。本町4丁目の件も空き店舗にしておくよりも、活用すれば若者も来て交流もあると思うが、そこだけで終わっている。地域の活性化で、若者も誰でも出てきて賑やかにまちを作っていくというのは、ちょっと違うと思う。

【富田座長】

言われた意味がちょっと分からない。金もうけのことか。

【浦壁委員】

まちづくりということを考えると、ちょっと違うのではないかと。ビジネスとしての

経費があり、採算が合わなければ撤退する。地域の活性化で若者も高齢者も呼び込み、何か祭りの的なものをやるという場合に、こういった方々は遠慮するのではないか。空き家で何でも埋まればよいという問題ではないと思う。

【富田座長】

何を言われたいのかちょっと分からないが、若者の地域参画で自分で事業を起こして採算が合わなければ駄目である。若者に来てもらうにはどうやったらいいかという部分では、彼らはPRが上手だ。今はSNSとかがあるが、もっといろいろな手はないか、ということで今調べている。ビジネスは成立しないといけない。通年観光でどうか。こういう使い方があるという紹介である。

住民は興味がなければ見ない。それをどうやってPRするのは課題である。皆で知恵を出していかないと高田区の活性化はなかなかできないと思う。

若者の地域参画から外れるが、ある本を読んだら、住民は地理的に便利で住みやすく、満足していて困ったことはないとのこと。

【高野副会長】

それは大いにあると思う。満足しているからこれでいいというか、発展性が頭打ちというか。やはり自分の町のよさというか愛着がないと、何となく生活することになると思う。だからこちらからいろいろ言ってもなかなか。

【富田座長】

では他区の地域協議会委員には周知しない。また、次の分科会の1週間くらい前に、今後の進め方や自主的審議でこういうことを考えているというのがあれば書いて提供する。

- ・以上のことでよいかを諮り、了承を得る。
- ・閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 南部まちづくりセンター

TEL: 0 2 5-5 2 2-8 8 3 1 (直通)

E-mail: nanbu-machi@city. joetsu. lg. jp

10 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。